

令和2年 後期 景況調査報告書

令和2年7～12月期 実績

令和3年1～6月期 見通し




徳之島三町商工会

(令和3年1月発行)

この調査は、商工会地域の産業状況等、地域の経済動向について半期毎に変化の実態等の諸状況を迅速・的確に収集しているものである。













この報告書の中で用いられているD・I指数とは、ディフュージョン・インデックスの略で、【増加・上昇・好転】の割合から【減少・低下・悪化】の割合を差し引いた値であり、企業の景気動向を表す指数として利用されている。

＜お天気マークの説明＞

 特に好調 +30.0 以上	 好調 +29.9～ +10.0	 まあまあ +9.9～ ▲9.9	 不振 ▲10.0～ ▲29.9	 極めて不振 ▲30.0 以上
---	---	---	--	--

- 調査対象期間 令和2年7～12月期を対象とした。令和3年1～6月期は予測値となる。
- 調査方法 商工会の経営指導員による訪問及び面接調査による。
- 調査対象商工会 徳之島町商工会・天城町商工会・伊仙町商工会
- 回答企業 対象企業 29企業
製造業：6企業 建設業：5企業 小売業：9企業
サービス業：9企業
(※徳之島の29企業を基に指数を表示しており、あくまでも参考指数とご理解いただきたい。)

島内産業別業況DI

		製造業		建設業		小売業		サービス業	
前期比	(令和2年1月～6月期)		▲38.9		0.0		▲3.7		0.0
前年同期比	(令和1年7月～12月期)		▲58.3		10.0		▲25.0		▲40.6
来期見通し	(令和3年1月～6月期)		▲33.3		▲10.0		▲16.7		▲15.6

総合（業況）

前年同期（令和1年7月～12月期）と比較した今期（令和2年7月～12月期）の業況は、製造業▲58.3、建設業10.0、小売業▲25.0、サービス業▲40.6となった。業況は前年同期と比較して、製造業とサービス業では極めて不振となり、小売業は不振、建設業のみ好調となった。製造業では、新型コロナウイルスによる自粛ムードの長期化でイベント等関連事業に伴う収益がなくなったことで売上・資金繰りともに極めて不振となった。建設業では、官公需要の活発化により完成工事額や資金繰りは好調となったが採算は横ばい、来期の見通しは不振となった。小売業では、新型コロナウイルス関連の支援金や給付金の影響で一時的に資金繰りは改善されているものの売上や見通しは依然厳しい状況が続いている。サービス業では新型コロナウイルスの影響による業況の厳しさが前期より継続しており脱却の見通しも立たず深刻な状況にある。

業種別景気動向

【製造業】 有効回答数 6 企業

		売 上 額		採 算		資金繰り		業 況	
前期比	(令和2年1月～6月期)		▲66.7	-	-		▲16.7		▲33.3
前年同期比	(令和1年7月～12月期)		▲66.7		▲66.7		▲50.0		▲50.0
来期見通し	(令和3年1月～6月期)		▲33.3		▲33.3		▲16.7		▲50.0

<調査対象企業が感じている景気判断コメント>

- ・新型コロナウイルスの長期化によりじわじわと売上や資金繰りが悪化している。

経営上の問題点

- ・新型コロナウイルスの影響や需要の停滞などが挙げられた。

【建設業】 有効回答数 5 企業

		完成工事額		採 算		資金繰り		業 況	
前期比	(令和2年1月～6月期)		0.0	-	-		0.0		0.0
前年同期比	(令和1年7月～12月期)		20.0		0.0		20.0		0.0
来期見通し	(令和3年1月～6月期)		▲20.0		0.0		0.0		▲20.0

<調査対象企業が感じている景気判断コメント>

- ・今期は公共工事の影響で業況は良くなったが来期はその反動がありそう。

経営上の問題点

- ・従業員の確保難、熟練技術者の確保難が挙げられた。

【小売業】 有効回答数 9 企業

		売 上 額		採 算		資金繰り		業 況	
前期比	(令和2年1月～6月期)		0.0	-	-		▲11.1		0.0
前年同期比	(令和1年7月～12月期)		▲33.3		▲44.4		11.1		▲33.3
来期見通し	(令和3年1月～6月期)		▲22.2		▲11.1		▲11.1		▲22.2

<調査対象企業が感じている景気判断コメント>

- ・新型コロナウイルスの影響で業者関連の仕入れが減少し業況の厳しさが増している。

経営上の問題点

- ・大型店・中型店の進出による競争の激化が最も多く挙げられ、その他には新型コロナウイルスの影響による需要の停滞、同業店の進出、購買力の他地域への流出などが挙げられた。

【サービス業】 有効回答数 9 企業

		売上額		採算		資金繰り		業況	
前期比	(令和2年1月~6月期)		12.5	-	-		▲12.5		0.0
前年同期比	(令和1年7月~12月期)		▲62.5		▲37.5		▲25.0		▲37.5
来期見通し	(令和3年1月~6月期)		▲12.5		▲25.0		▲12.5		▲12.5

＜調査対象企業が感じている景気判断コメント＞

- ・前期の緊急事態宣言下に比べると売上は少しずつ戻ってきているが前年と比較すると非常に厳しい状況。現在の支援金や給付金だけでは補填しきれない。

経営上の問題点

- ・新型コロナウイルスの影響による需要の停滞が最も多く、先行きの見えない状況に不安を抱えている。

《参考となるその他の景況から》

2021年1月28日
日本銀行鹿児島支店

鹿児島県金融経済概況

【概要】

鹿児島県の景気は、このところ足踏み状態となっている。

すなわち、最終需要面をみると、個人消費は、足もとでは一部に弱めの動きがみられているものの、基調としては緩やかに持ち直している。観光は、再び厳しい状況にある。住宅投資は、弱めの動きとなっている。公共投資は、増加している。

生産は、増加している。

企業部門の動向を短観（12月＜鹿児島・宮崎両県集計分＞）で見ると、景況感は、持ち直しつつある。設備投資は、高水準で推移している。

こうした企業動向を反映して、雇用・所得環境は、弱い動きとなっている。

【各論】

1. 個人消費

- 百貨店・スーパー販売額は、前年を下回った。家電販売額と乗用車新車登録台数（含む軽自動車）は、前年を上回って推移している。

2. 観光

- 主要ホテル・旅館宿泊客数、主要観光施設入場者数とも、前年を下回って推移している。

3. 公共投資

- 公共工事請負金額は、前年を上回った。

4. 住宅投資

- 新設住宅着工戸数は、貸家を中心に前年を下回った。

5. 生産

- 鉱工業生産指数（季節調整済）は、汎用・生産機械、食料品を中心に前月上回った。

6. 雇用・所得環境

- 有効求人倍率（季節調整済）は、上昇した。
現金給与総額は、前年を上回って推移している。
常用労働者数は、前年を下回って推移している。

7. 物価

- 消費者物価指数（生鮮食品を除く総合）は、前年を下回って推移している。

8. 金融面

- 預金、貸出金とも、前年を上回って推移している。
貸出約定平均金利は、緩やかな低下が続いている。
企業倒産件数は、低水準で推移している。